

# 小柳司氣太・日記（三）

## 【思くさ】

### 凡例

- 1、原本はB6判の大学ノート（13×20cm）に墨書で横書きに書いてあるので、そのままの体裁を取った。新聞などからの抜粋記事を鉛筆で書き記しているが、あえてその表示はしなかった。
- 2、漢字は原本通りとした。但し、「尹」は（婦）に当てた。
- 3、仮名はほとんどカタカナであるが、変体仮名は平仮名に直した。また、造字の「𠂔」はコト、𠂔はトモ、𠂔はトキにした。「耳」「子」をカタカナとして使用している場合は「ニ」「ネ」とした。
- 4、外国語はそのまま示した。
- 5、明らかな誤字は〈 〉をもって訂正した。
- 6、解読不能の文字は、推測可能な文字を宛て、尚不能な場合は文字数を□で示した。
- 7、改行は」をもって示した。
- 8、二行ワリの改行は／をもって示した。
- 9、読みやすくするため適宜句点、のみ付した。
- 10、[ ] は編者の補注である。
- 11、編集の都合上、各ページの冒頭に〔1頁〕の様に示した。
- 12、全体を通して英語の部分は、米国イリノイ大学のDr.Ronald.p.Tobyの御教示をいただいた。

（浅見 恵）

## 【思たけ】

「明治廿三年  
おもひたけ  
自四月至八月」

### 〔1頁〕

四月一日 晴

熊倉氏ニ書状ヲ発ス  
博覽會開場

四月二日 雨

今朝早川平治氏来報、鈴木先生」来京  
ヲ以テス、依テ先生ヲ小林」方ニ訪ヒ、  
懇親會等ノ準備ヲ以テ」早川氏ト開花  
楼ニ至タ（ル）、又佐」藤氏ヲ訪問シ甚  
ハダ尋忙、學校」休課  
平松氏ヨリ書状来タル  
一日午前八時半頃ヨリ、池鯉里ノ東」

安城ガ原ノ北一里ヲ隔ツル狭渡川」ヲ  
挟ミ、太神 中橋村 今村ノ三村ニ亘」  
タル劇戰アリ、陛下ニハ午前四時半」  
ニ本營御出發、刈谷ヨリ御乗馬ニテ」  
御親覽在ラセラレ十一時半休戰シ、再」  
ビ開戰、西軍利ヲ失ナヒテ走ル、東軍」  
之ヲ尾撃シテ池鯉里ハ西ニ戰カ」ヒ、  
薄暮休戰ス

### 〔2頁〕

三日

明治十五年以來五ケ年間學齡兒童自分  
中ノ比例大凡如此

明治十五年	脩學	不脩學
	50.72	47.28
十六	53.05	46.95
一七	52.92	47.08

18 49.62 50.38  
19 46.33 56 67  
米国オハイヲ河畔大暴風、無比」ノ害  
悪アリシト云フ  
本日午後十時、名古屋ニ於テ大」観兵  
式執行セラレタリ  
今夕熊倉氏ヲ訪問セントシ、路ニ東」  
ヲ駆リ上野ヲ通過ス、皓月中天ニ」懸  
リテ一朶ノ白雲之ト映發スルハ、是」  
レ櫻花ナリ、花下銀鞍月下舟ノ感」ナ  
キニシモ非ラザル也、豈ニ圖ランヤ、  
一」大石路ニ当タリテ車顛覆ス、車夫  
夫レ」古希獵哲学者ノ流亞歟、幸ヒニ  
人車共ニ無事、敢テ亦タ老嫗ノ救」援  
シト雖モ可ナリ、了源寺ニ至タル」時  
ニ八時頃、懇談百出、熊倉氏

[3頁]

手製ノホシコ煎、味甚ハダ甘美□牙ノ」  
五味ニ非ラズト雖モ、又是レ好下物」  
豈ニ信長ノ推奨ヲ俟タンヤ

四日 晴

早晨約アルヲ以テ、直チニ熊倉氏ヲ辞」  
シ健歩、早川氏ヲ訪問ス、時ニ午前」  
六時氏猶ホ無何有郷ニ在リ、氏ト共」  
ニ朝餐ヲ喫シテ、直ニ車ヲ駆リ末廣町」  
ニ至タリ、鈴木先生ヲ訪問シ、再ビ平  
松」氏ヲ訪問ス、皆是レ懇親会用ナリ」  
此時異議者アリ、該会将サニ敗ブレ」  
ント欲ス、余全カヲ振ツテ之ヲ論破シ」  
議漸ヤク定マル、再ビ車ニ乗ジテ、早」  
川氏ト共ニ上野、鳥八ニ至タリ、該」  
会ノ事務ヲ輪旅シ、遂ニ同店ニ取極」  
ハメタリ、時ニ正午牛店以テ飢ヲ医シ」  
テ早川氏ノ家ニ帰ヘリ、各所へ書状ヲ」  
發シ、漸ヤク其業ヲ終ヘテ飯路」平松  
氏ニ至タリ、其事情ヲ談シテ飯」ル、  
時ニ午後四時半也、苟クモ全權」ヲ  
委シテ却ヘツテ之ヲ掣肘スルハ、事」  
ノ尤モ不可ナル者也、余該事ニ付キ

[4頁]

当惑セリ  
吉川氏ヨリ書状来タル

関利八氏来訪

昨夜三日名古屋城ニ於テ陛下大宴」會  
ヲ行ハセラレ、陪者二十余有人未曾有」  
ノ盛舉ナリ

陸海軍大演習講評及勅語

陸軍講評

今般ノ陸海軍聯合大演習ニ於テ、演習」  
ノ大体ニ就キテハ、陸海軍茲ニ能ク其」  
施為ヲ誤マラズ、大ニ軍隊ノ進歩ヲ」  
觀ル、熾仁之ヲ喜コブ、三月三十一日  
東」西兩軍ノ軍隊区分及行進路ノ撰定  
各」々命ゼラレタル任務ヲ尽スニ適當  
セリ」同日武豊ヨリ上陸シタル西軍増  
加隊」ノ占領セシ位置ハ、適當ニ撰定  
シ、又東」軍枝隊長ノ半田ニ向ヒテ攻  
撃セシハ」地形上ヨリ論ズレバ不利ナ  
リト雖モ」當日ノ天候ニ拠レバ、其処  
置不適當ニ」アラズ、兩軍四月一日ノ  
軍隊區分モ」各々其當ヲ得タリ、但シ、  
東海道上今村」ニ於テ、容易ニ前衛ノ  
衝突センハ、一」ハ騎兵ノ働ノ充分ナ  
ラザルニ原因セシ」

[5頁]

ナラン、又兩軍共ニ其攻撃点ヲ撰定シ」  
テ、東海道ノ北方即ハチ里村及八橋」  
村ヨリスルコト、為センハ、最モ同意  
ヲ」表スル所タリ、但シ東軍ノ兵力寡  
少ナ」リシ、東軍ノ右側枝隊若シ本隊  
ノ」關ニ參與スルヲ得ハ、大ニ利益ヲ  
與ヘ」シナラン、本日最終ノ部署ハ、  
兩軍トモ」其任務ノ目的ニ適當セリ、  
然レドモ東」軍ノ攻撃ハ其功ヲ奏セズ、  
若シ敵ノ」左翼ニ向ケテ之ヲ行ヒ、或  
ハ二時間」早ヤク正面ニ行ヒシナラバ、  
其目的ヲ」達セシナラン、西軍右翼隊  
ノ突貫ハ」其功ヲ奏セズ、西軍左翼ノ  
砲兵陳〈陣〉ハ最初ヨリ野砲ヲ配置セ  
ハ、功能ヲカラン、兩軍ノ命令ニハ共  
ニ一ニ同」意ヲ表スルコト能ハザル  
所アリキ

海陸講評

西軍

戦艦隊駿州沿岸ノ妨害及的矢」港占

領ノ動作ハ、先ツ可也、伊勢海口ニ於ケル作戦ハ不十分ナリ、故ニ武豊占領ノ時」機ヲ遷延セシメタリ、知多湾ニ於ケル運」動ハ可ナリト雖モ、陸兵揚陸ノ遲滞シ」

[6頁]

タルハ、其命令確實ナラザルニ依ル、護送」艦及運送船の矢港へ廻航中、運送」船等ノ散乱セシ——ハ天候ニ因ルト雖」モ、命令ノ精確ナラザリシモ亦其一因ナリ」的矢港出港時機ノ遅延シタルハ、注」意周到ナラザルニ依ル、同港出港後」敵艦ニ對スル運動ハ可ナリト雖モ、伊」良古崎水道通過ニ際シ、運送船」ヲ戰艦艦隊ト敵トノ間ニ導カントセ」ンハ、処置ノ宜シキ者ニアラズ

#### 東軍

東軍隊伊勢湾口防戦ハ、進退其」機ヲ失セズ、充分ニ其目的ヲ達シタル者」トス、西軍知多湾へ侵入ノ後、直ニ其」舉動ヲ偵察セザリシハ遺憾ナリ、両軍」艦隊共ニ偵察ハ周到ナラズ、夜中水」雷艇隊ノ運動ハ、冒險攻撃ニ過ギ」復命ヲ遅延セハ遺憾ナリ、恭ンデ講評ノ畢ルヲ奏ス

明治廿三年四月二日

#### 勅語

陸海軍聯合大演習ノ細目ニ就キテ」ハ、今熾仁ヲシテ講評セシメタリ、之ヲ」

[7頁]

要スルニ、汝等上下各々能ク軍紀ヲ守モ」リ任務ヲ尽シ、以テ平素奮勵皇家及」国家ノ為メニ干城タランコトヲ期シタルノ」證ヲ示セリ、朕太ダ憚コブ、今後尚ホ」益勉勵セヨ

三日十一時（午後）新潟出火全焼ニ」百八十四戸

五日 雨

今夜平松氏ヲ訪問ス  
両陛下京都へ御着輦  
學校休課ス

麻布英和女學校校夫妻ハ、四日夜」強盗ノ為メニ傷ツケラレ、夫チエラーベ氏」ハ即死、妻ハ傷ツケラレ、賊ハ逃ケタリ

六日

早川平治氏及ビ余等兩人發起トナリ」上野鳥八十二於テ、旧師鈴木先生ヲ」招請シ、長善館生懇親會ヲ開ラク」會スル者三十有余人、三時半頃余」開會ノ主意ヲ述べ、先生ノ答辭アリ」ソレヨリ獻酬飛ブガ如トク、盃」

[8頁]

盤狼藉衆皆雜然トシテ酔フ、頽然トシ」テ飯ル、散會八時頃ナリ、直チニ木」村田中ノ兩人ヲ拉シ、早川氏ノ宅ニ」至タル、宿酔尚ホ醒メズ、」花ヲ尋ヌ

七日 少雨

佐藤 平松諸氏ヲ訪問シ、午前十」一時頃漸ヤク仮宿セリ

家大人ニ書ヲ呈ス

本月四日マルシャル、フォン、ビーベル。」スタイン氏ハ、独逸外務大臣ニ任ゼラレ」タリ

八日

成田氏 木村氏訪問セラル

佐藤氏訪問セラル

雛田氏ト共ニ熊倉氏ヲ訪ヒ、飯路山崎氏ニ至タリテ飯ヘル

此夜平松氏ヲ尋ネ、木村氏ト」遇フ

早川氏ヨリ書状來タル

[9頁]

昨年二月廿四日カロツケー氏内閣」ニ代リテ組織シタルチラール氏内閣」ハ、本月十四日元老院ニ於テ議員」フォーセー、ド、カレーユ氏ノ佛土通商條」約ニ関シ質問ヲ起シタルヨリ、終ニ」一問題ヲ生ジ、代議院ガ百十七ニ」對スル百廿九ノ多数ニテ、政府ノ議事」日程ヲ排斥シタルガ為メ、内閣員一同」辭表ヲ呈シ、新内閣ハ本月十七日右ノ」如ク組織セラレタリ

内閣議長兼陸軍卿 De Freycinet

内務卿 Constans.  
 外務卿 Ribot.  
 大蔵卿 Rouvier.  
 司法卿 Fallieres  
 海軍卿兼殖民卿 Barbey  
 文部卿 Bourgeois  
 工部卿 Jues Guyot  
 商工務卿 Jules Roshe  
 農務卿 Develle

Freycinetハ元老院議員ニシテ」他ハ代議士ナリ

[10頁]

明治十一年以後ノ梗、糯、陸三米」ノ収穫

年号	収穫石高	一反ニ付
十一	二五、二八二、五四〇	一、〇二
十二	三二、四一八、九二四	一、五八
十三	三一、三五九、三二六	一、二二
十四	二九、九七一、三八三	一、一七
十五	三〇、六九二、三二七	一、一九
十六	三〇、六七一、四九二	一、一九
十七	二六、三四九、八八三	一、〇一
十八	三四、一五八、一六九	一、三一
十九	三七、一九一、四二四	一、四二
二十	三九、九九九、一九九	一、五二
二十一	三八、六四五、五八三	一、四四

九日 晴

余ハ心モ弱点アリ  
 田中久作氏来訪ス  
 訳読科月次試業成績ハ九十二」点ニシテ三番ナリ  
 琵琶湖疎水開通式執行  
 木村氏来訪

[11頁]

十日 晴

早川忠治氏来訪  
 関利八 鶴巻鶴一 早川忠治ノ三氏」ヲ訪問ス

十一日

和學ヲ独習ス  
 ビスマルク公ハ宮中ニ到タリ、告別ノ」辞ヲ陳ベ帝ヨリ極ハメテ懇切ナル」

親書ヲ頂戴セリ、嗚呼革新ノ氣運」ヨ、汝ノ勢モ亦大ナル哉

去ル八日、新潟縣會議長樋口元」周氏ハ、議員ト激論ヲ起コシテ、遂ニ」辭職ノ一言ヲ止メテ議場ヲ去レリ、是」レーニ改進黨同二党ノ軋轢ヨリ生」ジタル者ナリ、余竊カニ怪シム、改進黨」同自由愛國皆是レ秩序進歩ノ目的」ナリ、主義ナリ、然ルニ其間水火商ナラザ」ルハ、是レ其根抵基礎同シカラサレバ」ナリ、然レドモ大同愛國自由ノ三党ハ、早晚」合シテ一丸トナラン、只ダ改進黨ニ至リテハ」結ムベカラズ、否ナ結ブ能ハザル也」而シテ彼ノ嘯々ヤレ過激ナリ、正理ヲ」

[12頁]

楯トセザル也ト頭カラ駭撃スルハ是レ」猶ホ盲人ノ巨象ヲ評スルガ如トキニ

十二日 雨

スタンレー氏ハ(ブルッセル)ニ向ツ」テ出發シタリ」西比利亞虐殺事件ヨリ、露國ハ大ニ」男女探偵ヲ米國へ發シテ、同國ノ好」意ヲ迎ヘント欲ス

十三日 晴

木村氏ト共ニ成田氏ヲ訪問ス  
 柴門深閑老猫眠、因テ早川平」治氏ヲ訪問シ、ソレヨリ單身熊倉」氏ヲ訪問ス、氏病床ニ臥シ、兎」叫飢(末三字ハホンノ景物)ト云」フ狀況ナリ、懇談、貳時餘帰」宿、昼飢ヲ喫シテ、小林氏ヲ訪」問シ、江口 和田諸氏ト長善館同」窓会ノ事ニ就キ計ル処アリ、五時」飯宿居  
 露國ハ四歩利付ノ公債七千五百」ルーブルヲ募ル旨公布シタリ

[13頁]

今日大学Boat Raceアリ  
 早川氏へ書ヲ送クル  
 木村 佐藤 阿部三氏訪問セラル」去ル十日佐藤富七氏死去セラレタ」ルヲ聞ク、余如此境遇ニ接スルゴトニ」常ニ人生ノ頼ノムベカラザルヲ嘆セ」ズ

ンバアラズ、氏ハ年未マダ弱冠ニ滞」  
ダス、此世ノ職務ヲ尽ガスシテ逝ケリ」  
見之テモ一日モ忽カニスベカラズ」噫  
鶴巻氏来訪

十四日 晴又雨

江口氏ヲ訪問シ、小林氏ト共ニ會」務  
ヲ議ス

マコレー氏彌峯嶺論ニ論ジテ曰」ハク、  
Scepti [ci] sm on points the most」  
clear, dogmatism on points the」most  
mysteriousト、以テ彼ノ言」論集會ノ  
自由ヲ禁止シテ法典編」纂ノ成功ヲ督  
促シ、重大ナル外交事」務ヲ早速ニ断  
決シテ、一少事ニ区々タ」ル者ヲ評ス  
ベシ

[14頁]

英国皇族コンノート兩殿下ハ、本邦ニ」  
来遊セラレタリ

曾紀澤氏薨去、氏字ハ劫剛曾國藩ノ長」  
子ニシテ、曾テ崇厚魯約ノ時大ニ尽力  
シテ」偉功ヲ奏セリ、実ニ清国一流ノ  
政治」家ニシテ、李中堂ト相提携スベ  
キ人物」ナリシ、嗚呼惜シムベシ

金融逼迫ノ為メ、洪澤等外二氏松方」  
大臣川田總裁ト大坂ニ會シ、九州山」  
陽岩鑛ノ三鉄株ヲ日本銀行ノ抵当」ニ  
スル計画アリ

ペラルド新聞、皇室ニ對シテ不敬ノ言」  
論ヲ記載シ、朝野頗ブル其処置ニ」動  
揺ス

平松氏ヲ訪問ス

十五日 雨

米國大ニ海軍ヲ擴張ス

早川氏ヲ訪問シ、懇親會殘務及ビ」同  
窓會用ヲ談話シ、四時同氏ノ宅ヲ」出  
テ、了源寺ニ至タリ、熊倉氏ヲ訪問」  
シ独逸学ヲ質問シ、晚餐ヲ喫ス、阪」  
路上野ニ出デ、鉄道馬車ニ乗リテ

[15頁]

永代橋邊ニ至タリ、佐藤氏ヲ訪問シ」  
阿部氏ト圍碁三局、阪宅ス  
板垣退助氏曰ハク、若シ余ノ頭ヲ地下」

ニ俯シテ、以テ諸君ノ合同ヲ得ルナラ  
バ、余ハ之ヲ辭セザル也、退助ノ耻辱  
ハ國家ノ事ニ」替ヘ難タシト、伯ハ權  
謀術數彼ノ大」同伯ニ及ハスト雖モ、  
其赤心憂國ニ至リ」テハ、吾人ノ深カ  
ク欽羨スル所也

十六日

平松氏ヲ訪問ス、不在ナリキ

Seven British Classics読了ル

小林氏ニ托シテ鈴木先生ニ書ヲ呈ス

関利八氏来訪ス

地震アリ

氣候甚ハダ蒸シ苦ルシ

縣會議長(新潟)樋口元周氏ハ、同議  
員堀川 大竹 齊藤ノ三氏ヲ訟フルニ、  
脅迫罪ヲ以テス、成程正当ノ法律ニ訟  
フルハ敢テ非ナリト云フニアラザレド、  
如此事ハ余マリ政府ノ干涉ヲ求メズ、  
自裁独行スル方然ルベシト思フ

[16頁]

十七日 晴

有斐學校ニ往キ野田寛氏ニ面ス、蓋タ  
シ大學入學試験模様ヲ質問セシ也

芦田 早川二氏ニ書ヲ送クル

十八日

熊倉 鶴巻二氏来訪

早川氏ヨリ書状来タル

(エミン パンヤ) 目下眼病ニ罹カ、リ  
一年未滿ニ盲目ニナルベシ(四月十六  
日)

大坂會議ニテ日本銀行ハ根抵当ヲナシ、  
貸出スコトヲ議決セリ

十九日 半晴半曇

小川町ニ往キテ、依田雄甫氏ヲ訪問ス

了源寺ニ往キ熊倉氏ヲ訪ヒ、阪路早川  
氏ニ至タリ大井氏ニ遇ス

二十日 風

錦町和田榮十郎氏ニ會シテ、長善」館  
同窓會務ヲ議ス」會スル者九人ナリ

[17頁]

吉岡商店ニ往キ羅句語書ヲ購求ス  
木村氏来訪

二十一日 晴

試験豫習ノ為メ、學校ヲ一切休」課ス

早川氏來訪

民事訴訟法八百五條及ビ民法中ノ財」  
産編五百七十二條、財産取得編（第一  
部）二百八十五條、債權擔保篇二百九  
十八條、訟據編百六十四條計千三百九  
條ヲ發布シ、且ツ民事訴訟法ハ二十四  
年一月一日ヨリ始行、民法ハ二十六年  
一月一日ヨリ始行スルコトニ命ゼラレ  
タリ

独逸皇帝陛下ハ、堯帝ニ書ヲ送クリ、  
現内閣ノ平和主義ナルヲ以テシ兩國同  
盟ヲ保証ス

板垣伯ハ、愛国公党結党式其他党務擴  
張ノ為メ、明日上京スル由

調和青年同盟會ハ、愛国大同自由ノ三  
党ヲ調和セント欲シ大ニ尽カス、且ツ  
愛国結党式ヲ廢止セシメント企テリ

[18頁]

貧民各処呻吟

江口氏來訪ス

羅句語學ヲ始ジム

二十二日 雨

十六日九州同志會ヲ開ラキタリ

二十三日 半晴

木村 佐藤の兩氏來宿ス

佐藤良三郎氏ヲ訪問ス

二十四日 風

圖書館ニ行キ、帰路熊倉氏ヲ訪問シテ  
飯ル、途中木村氏ニ邂逅シ因テ共ニ至  
タル

大蔵大臣ハ、愈外国米掛未決定ノ内命  
ヲ米商會所ニ下タシ、朝野之ガ為メ其  
是非ノ論太甚ハタジ

鶴卷氏來訪ス

スタンレー氏ハ（ブラッセル）ニ着シ  
テ王室ノ歡迎」ヲ受ケタリ

墮地利有名ノ政治家ジュール、アン。」

[19頁]

ドラツシヒ伯ハ、去二月十八日ヲ以テ  
逝去セリ

二十五日

関 鶴卷ノ兩氏來訪ス

二十六日 晴

熊倉 霜鳥 小林 大橋ノ四氏相尋エ  
デ來訪ス

鈴木先生ヨリ書狀來タル

新潟縣會解散ヲ命ゼラル、蓋タシカノ  
所謂脅迫辭職之ガ源因タルナリ、吾人  
ハ今更兩党ノ是非ヲ陳スルヲ欲セズ、  
公平無私ノ眼ヲ以テ之カ觀察ヲナスト  
キ、皆ナ之レ五十歩百歩ノ論ニシテ、  
甲ノ手段乙ノ手段皆是レ源因結果タレ  
バ也、大同派ノ方ニ無資格ノ議員アレ  
バ、改進黨ノ方ニハ賄賂議員アリ、大  
同派ニ粗暴ノ舉動（ア）レバ、改進黨  
ニ袖劍ノ壯士議場ニ入ルアリ、一ハ過  
激ノ手段、一ハ陰險ノ計略、一ハ直接  
ニ己ノ利ヲ説キ、一ハ間接ニ他ノ害  
ヲ□メス、夫レ議場ハ神聖ナリ、而シ  
テ正當ノ手段ヲ撰擧サレタル議長

[20頁]

ヲ脅迫（若シ用ユ得ベクハ）スルハ不  
法ナ」リ、然レドモ其議長ナル者何ゾ  
斯然之」ヲ拒ハマザルヤ、何ゾ一歩ヲ  
讓ルニ及」ヨバンヤ、夫レ議長ノ職ハ  
公職ナリ」一私人ノ私有ニ非ラザル也、  
然ルニ一」難事アルトキハ、之ヲ棄  
テ□□ザルハ、是レ」公職ヲ拋棄スル  
也、自カラ好シテ權」利ヲ蹂躪セラル  
、者也、然カリ而シテ」辭職ヲ宣言  
シナガラ（假令トヘ表面」的ニモ）敢  
テ之ヲ告訴スル不理モ」亦タ甚ハタシ  
ト云フ可シ、夫レ告訴ヲ為ス」程ナラ  
バ、何ゼ辭職ヲ其公會堂ニ陳」述セシ  
ヤ、吾人ハ實ニ新潟縣會ノ議」長一私  
人ノ身ヨリ觀察スルトキハ、實ニ」其  
辭職モ或ハ止ムヲ得ズ、其心事モ」憐  
レムベキ者ナリト雖モ、其公ノ資格ヲ」  
以テ之ヲ論スルトキハ、是レ議會ノ体」  
面ヲ毀傷セシ者ナリト云ハザルベカラ」  
ズ、何トナレバ告訴ナル者ハ、議員自」  
カラ其職ヲ治ムルコトヲ得ズ、議會自」  
カラ其秩序ヲ保モツコトヲ得ズ、未練」

ニモ行政府ノ庇陰中ニ事ヲ了セント」  
欲シタルヲ示メセバ也、議員保

[21頁]

護法アリト雖モ、豈ニ代議士タル者之」  
ニ委託シテ可ナランヤ、嗚呼政治家ハ」  
徳業ヲ貴トマザルベカラズ、独立心」  
ナカルベカラズ」怪ヤシベシ、彼ノ改  
進黨員ヨ、己レガ全」カヲ尽シテ撰出  
セル議長ヲバ人ノ」為メニ脅迫（用ヘ  
ベクハ）セラル、ヲ觀」テ敢テ之カ救  
援ヲ為サズ、袖手」傍觀シ居リシ乎、  
亦以テ團結心ノ」少ナク不撓心ノ足ラ  
ザルヲ證スベシ」然レドモ、地方議會  
ニ政治上ノ意見ヲ」交ユルハ不可ナリ、  
吾人ハ党派心ア」ツテ撰擧セシニアラ  
ザル也、吾人ハ」温順ノ手段ヲ以テ事  
務ヲ計畫ス」ル也ト云ハ、是レ吾輩  
ノ知ル所ニア」ラザル也  
吾人ハ党派軋轢ノ弊ヲ認メザルア」ラ  
ズ、九州地方ノ如トク各種ノ進歩」党  
團結シテ、反對党ト戦フノ好」政略ア  
ナルヲ知ラザルニアラ」ズ、然レドモ  
今日ノ勢ヒ岐坂ニ石ヲ」轉ズルガ如ト  
シ、勢ヒ止ムベカラザ」レバナリ、然  
レドモ坂尽キレバ石止マル」

[22頁]

地方党派ノ極端競争モ、他日必ラ」ズ  
止マルベシ、吾人ハ彼ノ一過激ノ」事  
アルコト毎ニ喋々之ヲ論シ、之ヲ好」  
口実トナシ、以テ自カラ為メニスル者」  
ヲ悪クム也、天下ノ事一利一害アリ」  
十全十義ヲ企ツルハ、自カラ敗ブル」  
所以也

商法發布セラレタリ

二十七日

山崎氏ヲ訪問ス

関氏ヲ訪問シタリ、不在ナリキ

鶴巻氏來訪ス

露帝ハ大学生ノ暴行ヲ憤リ、一年」間  
ノ閉校ヲ命ゼリト

二十八日 曇

木村 関ノ二氏來訪ス

小林氏ヲ問フ  
神皇正統記ヲ讀ム  
三百万円流出

[23頁]

二十九日

外山博士ハ日本美術會總會ニ於テ、三  
時間余ノ演説ヲ為シ、画人ハ尽トク詩  
人タラザルベカラズ、其画ガク処」情  
氣觸動ノ際ニ画カズンバ、極メテ」無  
味タルコトヲ痛論シタリ

秋葉原鉄道布設事件ニ付キ、區民大」  
ニ激昂、其中止ヲ請願セリ

余レ国史ヲ讀毎ニ、天祖ノ神敕室」昨  
無究ノ段ニ至タル毎ニ、肅然容ヲ」改  
メザルコトナキ也

小林氏來訪、園基六局

平松氏ヲ訪問ス

卅日

試験豫習ノ為メ、元北豊嶋郡今下谷区  
谷」中三浦坂上□源寺内へ寄宿ス

朝野新聞社へ書状ヲ發ス

田中氏來訪

[24頁]

五月一日 雨

早川氏ヲ訪問ス、不在

佐藤氏ヲ訪問ス

家大人並ニ熊谷 渡辺ノ二氏ニ」書ヲ  
送クル

二日 曇

漬物購求ノ為メ、上野ヨリ本郷通ヲ經  
テ歸ヘル

筍子ヲ煮ル

田村正八氏ニ書ヲ送クル

米穀供給ノ為メ、中央備荒儲蓄」金流  
用ノ件ヲ裁可ス

五月三日 雨

連日天氣不定身神甚不快ナリ

四日 雨

熊倉 早川 雛田ノ三氏ヲ訪問ス

山崎氏ニ書ヲ送クル

[25頁]

五日 雨

醬油並ニ油ヲ購求シ大ニ困却セリ」是迄下宿屋ノ二階ニ蹲居シ、萬事」下女等ヲ頗使シ、我儘ヲ為シタリシニ」突然今度万事躬カラ手ヲ下タサザル」ベカラザルニ至タリシ故、大ニ困却セリ、然レドモ必ラズシモ利ナキニアラ」ラズ(ママ)、亦大ニ覺トル所アリ、然ラバ此」困却モ豈ニ困却トスルニ足ランヤ

六日 曇且少雨

霜鳥氏ニ書ヲ送クル

七日 少雨

熊倉氏ヲ訪問ス

宅ヨリ書状来タル、返書ヲ送クル

兩陛下下御還幸

西濃人民八百余名、乞食ノ鑑札下付」ヲ願出タリ

八時間労働ノ目的ヲ達センガ為メ」職工罷工ハ欧米国一般ニ廣ガルノ」勢アリ(五月五日倫敦發)

[26頁]

八日 晴

連日雨天、新ラタニ霽レテ氣候亦タ」温和、精神爽快、百物青々」狗跳ドリ、雀囀ゾル

此夜山崎 保倉ノ両氏ヲ訪問シ

雛田氏ニ至タリテ泊ス

九日 晴

暁ヲ冒カシテ帰ヘル

家郷へ書ヲ送クル

烟草ヲ始メテ飲ム

寺ニ畜ナヘ置キシ小サキ(カナリ)蛇」ノ為メ吞マレニキ、蛇ハ腹膨張ヲシ」テ疾ク匍匐ヘルコト能ハザリシカバ、殺」ロサレタリ

コンノート殿下我国ヲ發シ、米国へ」向ツテ行カル

十日 曇

ブラジル政府ハ、着々歩武ノ模」様アリ

[27頁]

十一日 晴

故郷ヨリ書状来タル」美土代町自由亭ニ於テ、長善館同窓会第一小會ヲ開ラク、會スル者十三人

帰路関氏ヲ訪問シテ泊ス

此日鶴巻氏脚氣ノ重症ニ罹カリテ飯国ス

十二日

早暁関氏ヲ辞シ、大學寄宿舎ニ至ル、然レドモ舎門未開、空飯寓居

此日ウキルテル氏萬国中古史開卷

十三日 雨

熊倉氏ヲ訪問ス、不在、帰路関 佐藤敬ノ諸氏ヲ訪問ス

十四日」晴

熊倉氏ヲ訪問ス

祖父君午後一時着京、直チニ」

[28頁]

上野ニ至タリ連玉庵ニ至タリテ」蕎麥ヲ喫シ、左畢ハリテ山崎」氏ヲ訪問シ、帰路鱈ヲ」食フテ晚餐トス

十五日 晴

祖父君ト共ニ芝区福沢塾ニ至タリ、渡辺」山崎ニ氏ト面會シ、帰路九段ニ出」テ朝飯ヲ喫ス、勸工場ニ至タリ帽」ヲ購求シ、赤馬車ニ乗ジー鞭、萬世橋」辺ニ達シ浴場涼ヲ取り、腕車鱗々」博覽會ヲ覽觀ス、帰時三時也」

熊倉 保倉ニ氏ヲ訪問ス

十六日 晴

東園館ニ至タリ、出品人縦覽鑑札ヲ」受ク

博覽會ヲ見物ス

洋傘ヲ購求ス

帰時陛下ノ還幸ヲ拝觀ス

保倉氏ヨリ書状来タル

競馬ヲ構内ニ於テ觀ル

[29頁]

愛国公党、大同団結、再興自由党合併ス

英人サンマーハ皇太后ニ不敬ヲ為シタ



ルト」云フ事ニ付キ、齋藤新一郎氏ヨリ其真偽」ノ説明ヲ請ハレ驚愕、帰国セリ」日本政府ハ(サンマー)ニ謝スルニ、同人ガ」御道筋ヲ横切りタル節、近衛兵ノ」其帽ヲ拂ラヒタルヲ以テシ、剩サヘ士官」ヲ其門ニ遣ハシタリ、巡查ヲ遣ハシテ之ヲ」警衛セシメタリ、咄々怪事

高崎府知事ハ、士族授産金ヲ関 田」口等ニ専断ヲ以テ下附シタル事ニ付」朝野囂々タリ

十七日 曇

熊倉氏来訪

パノラマヲ見、且ツ東園館美術展」覧会ヲ見ル

祖父君ハ第三回内国勸業博覧會ニ」米及ビ小豆ヲ出品セリ、其説明書左ノ如トシ

第一小豆方言北海道種

第二米 方言巾着餅

第一畑反歩式反歩

[30頁]

第二米田老町五反歩

[31頁]

最近十年間米(穀カ)ノ産出高	(一反歩ノ收穫平均)
明治十二年 3 2 4 1 4 9 2 4 石	1 石 2 斗 8 升
十三 3 1 9 5 9 3 2 6	1 2 2
十四 2 9 9 7 1 3 8 3	1 1 7
十五 3 0 6 9 2 3 2 7	1 1 9
十六 3 0 6 7 1 4 9 2	1 1 9
十七 2 6 7 4 9 8 8 3	1 0 1
十八 3 4 1 5 8 1 6 9	1 3 1
十九 3 7 1 9 1 4 2 4	1 4 2
二十 3 9 9 9 9 1 9 9	1 5 2
二十一 3 8 6 4 5 5 6 3	1 4 4
平均一ケ年間ノ收穫	3 3 1 4 5 7 6 9 石
平均一反歩ノ...	1 石 2 斗 8 升

貴族院勅選最多数額納税者ニ付キテ」ノ話」三府四十三縣ノ互選人員ハ六百九十五」名ニシテ、其納稅総額ハ七十二万」九千六百三十一円、之ヲ全国農戸

第一土質砂交黒色

第二 赤色

蒔植第一、六月中旬蒔入、十月下旬採取」ス、第二号糯米四月廿七八日ヲ以テ」播手日数廿八九日ヲ経、五月廿六七日」ニ至リ植付、十月初旬採取ス

培養並施糞第一号小豆ハ、発芽后大凡」廿日間ヲ経テ尿ニテ侵タシタル藁灰ヲ」施コシ、採取迄三回採取ス、第二号」糯米ハ、播種二十日以前苗代田」苧畝歩ニ付人糞式石、大豆苧斗、藁」灰等ノ肥料ヲナシ、日光ニ乾燥シ、雜」草ヲ去リ、打起コシ、更ラニ播種二三」日」前ニ細末ニ地盤ヲ平均シ、一日間日」光ニ乾燥ス、田面ハ春季能ク乾カシ」雜艸藁等ニ土ヲ交ヒ、人糞河水ヲ注」キタル作肥料ト、一反歩ニ付大豆一斗」五升ノ量ヲ散歩ス、而シテ採草ハ六月」上旬ヨリ出穂ノ頃迄六回施行ス

産出高總計第一小豆式石六斗、此代」金拾五円三拾四錢、第二糯米四十」八石、此代金四百八円也

ト」地租総額ニ比スレバ、納稅額ニ於」テハ六十分ノ一ヲ占ム、戸数ニ於テハ八千」分一ヲ占ム」其最モ納稅額ノ多キ府額ト最少ノ」者ト比較スルニ、実

ニ二十倍ノ差アリ]

[32頁]

最多数額納税者ト最少額納税者ト」比スルト、五十七倍ノ差アリ、各府縣ニ付」キ最多数額納税者ト最少額納税」者トヲ比スルニ、其懸絶尤トモ甚シキ」者ハ高知ニシテ1/10、其次ハ兵庫1/9、群馬」三重 山梨ヨリ其最少ナルハ福岡ニシテ」1/2ノ割合ナリ

山崎氏ヲ訪問ス

西郷従道伯ハ、海軍大臣ヲ去リテ」内務大臣ニ、文部大臣榎本子ハ」枢密院顧問官ニ、芳川氏ハ文部」大臣ニ、樺山子ハ海軍大臣ニ、陸」奥氏ハ農商務大臣ニ、白根専」一氏ハ内務次官ニ、山県伯ハ内」務大臣ヲ去リ、岩村氏ハ農商務」大臣ヲ去レリ

五月一日社會党ハ欧州ニ其宣」言書ヲ発シ、一日労働八時間」ニ減ズルコト

等ヲ主意トセリ

郡制府縣制愈發布セリ

兌換券銀行券條例改正ヲ」發布シ、七千万円ヲ八千五百万円」トナシ、日本銀行ハ無利子ヲ以」

[33頁]

テ二千五百万円ヲ政府ニ貸スコトニ」決シタリ

沼間申一氏死去

十八日 少雨

三田福沢幼稚舎ニ至タリ、山」崎 渡辺二氏ヲ迎カヘテ上野」ニ来タリ、祖父君ト同行共ニ四」人博覧会ヲ見、鳥八十二於テ」中飯ヲ喫シ、浅草ニ至タリ吾妻」橋ニ至タル経画ナリシガ、俄」然少雨降ダリタリ、因テ山 渡」二氏ト共ニ三田ニ帰舎ス、余」ノ飯時ハ四時頃ナリキ

清国産業ノ輸出額

輸出先	二十二年度	其額
英		93.715.082 封度
欧州 (露ヲ除ゾク)		1.145.736
露		17.441.235
米		40.860.490
豪州		20.767.984
南米		1.644.425
合計		175.575.002

二十一年度

[34頁]

英	101.757.193
欧州 (露ヲ除ゾク)	1.145.288
露	17.????.295
米	40.041.106
豪	20.767.784
南米	1.644.425
合計	185.825.182